

# 雨空に白煙たなびかせ



▲ふりしきる雨の中を力走する二中リレー隊 (城下町小橋を背に)

あかぎ国体大会旗・炬火リレー

## 10月8・9日に 本町を無事通過

▶第一走者の中一高橋君



あかぎ国体の前奏曲、大会旗・炬火リレーが十月八日、早内四か所から一斉にスタートし、本音前の気運を一段と盛り上げました。

吉井町リレー隊によって運ばれた炬火(群馬の森の火)は、八日午後四時前、中継所の金井橋現堂ドライブイン前

に到着。大勢の観衆の見守る中、田村町長の持つトーチに点火され、一中一歳のランナー高橋功君の手へ。

高々と掲げられた炬火は、灰色の霧をオレンジ色に変え、大きな拍手、声援の中を次の中継所へ向けて出発。小雨にけむる国道を白煙をたなびかせながら走る姿は、勇壮そのもの。どこの道道も大勢の人達が出迎え、びた走るリレー隊に大きな声援を

▲炬火引き継ぎ一中から二中へ



▼炬火を盛り上げる一中プラスバンド部員の演奏



送りました。

午後四時二〇分、役場に到着した炬火は、安全灯にとともに、ここで一泊し、翌朝再び、二中リレー隊によって最後の中継所へと向いました。冷たい雨の降りしきる中、元気な足どりで走る走者には、ここでも大きな声援が飛び交い、午前九時五〇分、善慶寺の中継所に無事運ばれた炬火は、持ち受けた富岡市長の手へと引き継がれ、二日間のリレーが終了しました。

この炬火は、十四日に、他の三コースの火と合火され、開会式の十五日から閉会式までの六日間、「群馬の火」となって競技場に燃え続けました。当日は、みなさんの温かい声援ありがとうございました。